

令和 2 年度第 3 回扶桑町総合教育会議・議事録

名 称	令和 2 年度第 3 回扶桑町総合教育会議
日 時	令和 3 年 2 月 1 0 日（水）午前 1 0 時から 1 0 時 5 5 分
場 所	扶桑町役場 2 階 大会議室
出席者	鯖瀬町長 澤木教育長 加藤教育長職務代理者 松山教育委員 千田教育委員 江口教育委員 志津野教育次長兼学校教育課長 仙田生涯学習課長 小川文化会館長 田口学校教育課指導主事 事務局 紀平総務部長 長谷川政策調整課長 小室政策調整課主査 傍聴者 なし
議 題	1. あいさつ 2. 協議事項 （1）扶桑町教育大綱（案）パブリックコメント結果について （2）子どもたちが住み続けたいと思うようなまちに 3. その他
内 容	1. あいさつ （町長） 本日は大変お忙しい中、また、寒い朝になりましたけれども、扶桑町総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。 愛知県下には依然として緊急事態宣言が出ておりますけれども、本日はこういった出来る限り間隔、ソーシャルディスタンスを取っていただいて、また、換気にも注意をしながら開催させていただきますので、何卒ご理解の程をお願いいたします。 今年度はやはり新型コロナウイルスのことになってしまいますけれども、学校現場におきましても長い休校ですとか色々な行事の中止・縮小がございまして、児童生徒の皆さんにも、いわゆる心の傷が残ったかと思えます。ご家族からの感染等で感染された児童生徒さんはございましたけれども、幸いにも学校の内での集団感染というのは起こっておりません。これも、地域の皆様方、教員の先生方のご尽力のおかげと感謝申し上げるところでございます。 まだまだ皆さんの生活も厳しい状況ではございます。明後日に臨時議会を予定しておりまして、その中で、追加の支援策とし

まして、小中学校、保育園も含めて、3月分の給食費を再度免除させていただいて、支援をさせていただこうと、ご提案させていただいておりますので、これはご報告だけさせていただきます。

それから、令和3年度から4月からおきましては、少子化対策の一環として第3子以降の給食費は免除ということ、これは年間ですけれども、そういった施策も議会のほうに提案していこうと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

ただ、非常に厳しい状況もございまして、先日は扶桑東小学校で消火栓設備の故障ですとか、そういったことで緊急的な予算が必要になったりとか、そういったこともございます。また、ちょっとこの先につきましては文化会館の色々な設備の改修ですとか、そういったことに多額の経費が必要と言う状況もございますので、そういった財源を捻出していくためにも節約できるところは節約させていただきながら、そういったことに財源を投入していくように教育委員会としっかりと協力して進めていきたいと思っております。

それからタブレットですけれども、おかげさまで全児童生徒さんにいき渡りまして、これからしっかりとICT教育を進めていきたいと思っておりますので、またよろしくお願ひをいたします。

こういったことで扶桑町の魅力を発信させていただいて、この扶桑町に住み続けたいと、そういったまちにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

少々長くなりましたけれども、本日は皆様方から忌憚のないご意見をいただいて進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

2. 協議事項

(1) 扶桑町教育大綱(案)パブリックコメント結果について

(議長(鯖瀬町長))

協議事項に移ります。(1)扶桑町教育大綱(案)パブリックコメント結果について、事務局より説明をお願いします。

(政策調整課長)

それではまずNo.1の資料をご用意頂けますでしょうか。

前回の総合教育会議でご説明させていただきましたとおり、12月7日から1月5日の30日間、パブリックコメントを実施いたしました。その結果、お2人の方から合計3件のご意見をいた

だいております。頂いた意見をこちら資料 No.1 にまとめさせていただきます。

パブリックコメントの意見欄の文言は意見をいただいたままの記載をさせていただきますのでご了承ください。

それでは、まず 1 つめでございます。

連番の 1 のパブリックコメントの意見です「自然とのふれあいを通じて子どもたちが学ぶことを推奨します。それにより命の大切さをはぐくむ事ができると思います」というご意見が出ております。こちらにつきましては、資料 No.2 をご用意頂けますでしょうか。こちらの一番最後のページに 3 番重点目標とあります。一番最後の裏面ですね、こちらの中で一番上の 4 つ項目がありますが、1 番上の柱で「新しい時代の学校教育に向けて」という中で、上から 2 番目のところですね、△印がありますけれども、その枠の中の上から 2 番目のところに「個々の特性を尊重し自尊感情を高める教育活動を推進し、自他を大切にすることを育てます」と記載をさせていただきます。命の大切さをはぐくむというご意見の趣旨は、この中に含まれていると考えておりますので、大綱（案）の内容の修正等には至らないという風には考えております。

続きまして、2 つめのご意見でございます。

パブリックコメントの意見といたしまして、「子どもたちがお年寄りたちと交流することにより、お互いに学ぶことがあるのではないかと思います」と。この意見の対応としましては、また教育大綱（案）資料 No.2 をご用意ください。2 枚目、表紙から数えると 3 ページ目になりますけど、2 番の基本方針というところが有るかと思います

その中の、基本方針の 2 に「郷土を愛し、まちの未来を見つめる時代の育成を地域とともに推進します」と記載をさせていただきます。また、重点目標、一番最後のページの柱の上から 2 番目に、街ぐるみで時代を育成するということを謳っておりますので、世代間交流はこの中の一部として位置づけておりますので、こちらにつきましても内容の修正等には至らないという風に考えております。

続きまして 3 つめのご意見でございます。

「教育大綱として『多様性』もキーワードとしてとらえる。冒頭『改正にあたって』の項で書き添えてはと思います。」というご意見でございます。

こちらにつきましては、グローバル化の進行が加速する中で、個人や集団の間に存在する様々な違いを理解し包括していくことは必要ではないかということを考えます。そのため、大綱案の、また資料 No.2 をお願いします。大綱案の表紙から数えて2ページ、めくって裏面ですね。こちらの1番に改定にあたってと言う項目がございます。この項目の中の4行目にSDGsの達成、アンダーラインを引いていますが、「多様性の理解」という文言の追記をして整理させていただいてはというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

今回寄せられた意見に対しての回答・対応についてはこのような形を考えておりますが、また、みなさま方のご意見等をお願いしたいと思います。

以上で説明を終わります。

(議長)

ただ今、事務局のほうから(1)扶桑町教育大綱(案)に対しますパブリックコメントを実施した中で、住民の方より意見をいただいた件につきまして、一部事務局のほうの意見として修正を加えると言うようなことをご報告させていただきました。このパブリックコメントに対する修正案も含めましてですね、皆様方からご意見があれば頂戴をしたいと思っておりますので、ご質問があればよろしくお願いいたします。

特に大きな修正がなければ、今日のこの会議で、進めさせて頂いてこれを教育大綱として発表する手続きを進めさせて頂くことになりますので、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、パブリックコメント以外にも、もし本日あれば頂戴しておきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

特によろしいですか？

これは、最終はいつ頃になりますか？

(政策調整課長)

今日の会議で区切りたいと思います。

(議長)

もし近日中にまた何かご意見があれば、事務局にいただければご相談はさせていただけると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それではご意見もないようですので、協議事項の（１）につきましてではこれで閉じさせて頂いて、今の修正案を原案として教育大綱としてまとめるということにさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（２）子どもたちが住み続けたいと思うようなまちに

（議長）

事務局より説明をお願いします。

（政策調整課長）

今回、こちらの議題につきましては、扶桑町は現在人口のは微増の状態推移しているところがございますが、見込では人口減少がいつ始まってもし思議でないというところまでできていると考えております。扶桑町の人口を極力減少させない、扶桑町に住み続けたいと思ってもらえる、また、新しく扶桑町に住みたいと思ってもらえるようなまちにしていくなためにご意見をいただければと思っております。

現状、扶桑町で行っております教育施策について、いくつかご紹介、ご説明させて頂きたいと思いますので、その後、意見交換等お願いできればと思っております。

教育施策の一つとして、まず適応指導教室というものを行っております。不登校やその傾向にある児童生徒の居場所づくりを目的として現在、柏森学供で実施をいたしております。今年度は13名が登録をいたしております。

続きまして、スクールソーシャルワーカーの制度です。現在学校教育課に1人スクールソーシャルワーカーを配置しております。学校や保護者からの相談に対して関係機関と連携を取りながら支援を行っております。

続きまして、医療的ケアの支援事業でございます。こちらにつきましては、医療ケアが必要な児童生徒に対しまして現在2名の看護師資格を持つ支援員が在職をいたしております。

続きまして、食物アレルギーに対する学校給食の個別対応事業です。学校給食共同調理場にアレルギー食専用の調理室を設置しており、個々に合わせたアレルギー対応の学校給食を提供できる体制を現在整えております。

以上簡単ではございますが、現在扶桑町が教育という面から行っている施策の一つでございます。現在行っている支援をまた今後

どうやってアピールしていくか、また、他にどのようなことがあれば今の子どもたちが大人になっても扶桑町に住み続けたいと思ってもらえるのか、また転入者を増やすことができるのかと言ったことなども踏まえながら、忌憚ないご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(議長)

事務局からの説明が終わりました。この議題につきまして、色々なご意見ご要望があるかと思います。事務局から説明させていただいたこと以外にもたくさんあるかと思うので、ご意見ご要望等含めてお願いしたいと思いますので、挙手をお願いいたします。

(加藤教育長職務代理者)

扶桑町の教育の特色を一つ述べたいと思います。それともう一つは要望を付け加えてお話をさせていただきたいと思います。私たち教育委員は毎年それぞれの小中学校の学校訪問にお邪魔しています。6校共お願いしております。学校の様子とか児童生徒の学習の様子を見守ってきています。それと同時に他地区の指導主事の先生がいつもみえています。指導・助言という立場で来校してみえるという風に思いますが、その先生方から、いつも最後の方に言われるのは、扶桑町の子どもはいつもどの学校でも落ち着いた状況の中で学習ができていて素晴らしいという、お褒めの言葉をいつもいただいております。何がそうしているかということ考えた時に、今、特に発達障害の子がどんどん増えている状況であります。落ち着いて授業を受けるということ自体が非常に難しくなっているという現実の中で、それも、ややもすれば学級崩壊もしかねない状況の下で、落ち着いた学校生活を送っているということです。扶桑町では、これらのことをなくすために個に応じた教育とか、きめ細かな教育を進めていくために、特別な支援員を数多く配置して個に応じた指導に当たっていき、そして教育効果を上げているということをもものすごく感じます。これが扶桑町の教育の特色ではないかと思っています。だから、今後も特別支援員の数多い配置をよろしくお願いしたいというのが一つです。

もう一つは、要望ですが、私も教育委員になって6年が終わる訳ですけれども、近隣と比べた時に例えば少し大きい岩倉市、少

し小さい大口町と比較した時に、指導主事の複数配置がないによって、微妙に違ってくるなということを感じます。岩倉市はほんの少し大きいだけで2名配置だし、小さい大口町でも複数配置です。どんな仕事があるかというのは具体的には分かりませんが、大きい小さいがあっても出張や研修だとか教育活動全般に渡っての支援や指導というものは同じ分だけあると私は思います。そのために、一人でのスーパーマン的な取り組みが必要になる訳ですけれども、そこには心的なものだとか、時間的なもの、そういうものに余裕がなく日々必死でやってみえるというのが現状ではないかなということだと思います。やはり、教育委員や学校にとっては、その核となる指導主事の役割というのは、心に余裕がなければ良い発想等も思い浮かばず、形式的な面になりがちでないかと思います。また、これから学校教育の枠を越えてコミュニティスクールなどを目指そうとするならば、まず、やはり指導主事の複数化を是非実現して欲しいということを強く思います。扶桑町の特色についてとそれから指導主事の複数配置についての要望をお話させていただきました。

(議長)

ありがとうございました。私も基本的な考え方としてはできる限り委員と同じような住民サービスを実現したいというのは常々思っているところでございます。そういうところをお願いして、どうしたら扶桑町がその中で特色を出していけるか、また教育現場で子どもさんが健やかに成長できる環境を実現できるかということを中心掛けながら、今後の施策の中で検討して進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

その他に、委員さんどうぞ。

(千田教育委員)

先ほど、「子どもたちが住み続けたいと思うようなまちに」という大きな目標というか、それを基に教育も現場も考えていくことだと思いますけれども、たまたま今、東京がコロナで悲惨な状況で、愛知県でもそれに近いところもありますが、地方にリターンする方が増えてきているような報道を見ました。扶桑に帰って、就職先も探して、安全なところで子どもを育てたいという30代、40代の方も増えてくるのではないかと、その報道を見た時に思いました。リターンしたいと思うようなまちでなければ、もちろ

んいけませんし、その子育て世代を安心して守るためにも、先ほどのアレルギー対応の給食なども、すごく細かく対応していただいているなど、食物アレルギーの子どもが多いので専用調理室まで作って対応していただいているということ、除去食やアレルギー食にすごく力を入れているということは教育委員として聞いていましたけれども、実際には確かに専用調理室がないとそこまで細かいことはできないということを今思いました。先日、調理場運営委員会の時に色々と報告を聞きましたが、その時、私が質問したことに対して真摯に受け止めて結果の回答もいただいたりしたのですけれども、それはパンに除草剤グリコサードが検出されているという他県での話を聞いたので愛知県は大丈夫ですかという質問をしたら、早速、回答を得ました。パンだったら外国産小麦が殆どだろうと思っていたら、県内産が2割でも入っていて、少し安心したのですけれども、全く外国産に頼っていた訳ではないと。愛知県の学校給食会を通して指導されているとは思いますが、残念なことにグリコサードの検出については検査項目になかったので分からないという回答でしたけれども、ただそういうチェックをしようという姿勢が調理場の中にあり、少し安心しました。そういう風にアレルギーとか農薬とか除草剤の残留濃度の検出などに向かう姿勢があることが、ゆくゆく子どもたちが9年間、小学校1年生から中学校3年生まで食べる食事の元になるものですので、アレルギー対応や除去食以外にそういう安全な食物についての対応がされていることはいいなと思いました。うちは農家ですので、小麦が作ればいいなということも家庭で話しています。JA愛知が県内産小麦、犬山市とかですと栽培農家を募って県内産小麦100%のうどんや冷や麦を作っています。それは子どもや孫に安全なものを食べさせたいために少し割高でもそういう小麦を使ったものを食べさせようとしています。そういう姿勢が地元にあることがいいなと思います。休耕の畑を持っている農家は多いと思います。うちも米は作っているのですが、小麦を作るとなったら、どういう農機具がいるのかと具体的にやろうと思うと遊ばせている畑で小麦を作ってもいいじゃないかと思っています。犬山市ですいている方がいるのであれば、何とかそういう方法を探って、例えば、教育委員会だけではなく農業委員会とか、色々なところを巻き込んで、子どもたちに9年間安全な県内産の地元産の小麦を作って、そのパンを食べさせたいという、そういう運動ができれば、和歌山県では既にやっているの、で

きないことではないのではなかろうかと。そんな夢みたいな話でもないのではないかと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございます。地産地消というのも重要な政策でありますので、JA 愛知さんとも色々な繋がりがありますので、話をさせていただいて、少しでも、できれば県内産、町内産を使った給食が提供できれば非常にいいことだと思いますので、時間がかかるかもしれませんが、相談をさせていただきたいと思います。

(千田教育委員)

今の給食の献立表が、パンごはんパンごはんとは必ず半々になっているのですが、そこまでこだわらなくても、ごはんが2でパンが1になっても献立を見直す機会にもなるのではないかと思います。より安全な農薬のないものを食べさせるという視点で献立表を見直すのもありかなと。お米をもう少し食べてもらってもいいのではないかということも思いました。実現不可能なら、そういうふうに変えるのも、家でパン食の子は昔よりは多い筈なので、もう少ししっかりとしたご飯食があってもいいのかなとも思います。

(議長)

今の給食については相談させていただくということで。

(澤木教育長)

小麦を地元で作ってパンを作るというのは、夢のある話なので大変に参考になりました。ありがとうございます。

(議長)

子どもたちにまちの魅力を伝えていくという点も非常に大事なことでありまして、少しでもありますがホームページにも町の紹介ということでコーナーを増やさせていただいて、先ほどの給食調理場のアレルギー食のことも載せさせていただいておりますし、そういうことをできるだけ多くのメディアの媒体とか使ってやっていきたいと思っておりますので、今後もそれを改良しながら進めていきたいと思っております。

もう1点といたしましては、来年度に児童館を着工する予定を

しております。これもできるだけ多くの子どもたちに喜んでもらえるような、お父さんお母さん方にも来ていただけるような施設にしたいと思っております。広報2月号に概要図ということで、どういうものを作りますというのをお伝えしておりますので、また、ご意見がありましたらいただければと思っております。今、大分、設計が進んできておりますけれども、まだまだ直せるところはあります。要点は前回も申し上げたかもしれませんが、元々は児童館と保健センターを併設という計画でございましたけれども、少し駐車場不足ですとか、そういう問題もありまして、今回はまず児童館を作るということで、保健センターの建設予定地は駐車場という案で出させていただいておりますので、多くの方にご来場いただけるように魅力ある児童館を作る。これも大きな町の魅力になると思いますので、そう言ったことも、またご意見があればいただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

その他ございましたら、よろしくお願いいたします。

(江口教育委員)

私は、不登校になってしまった子への支援というところからですけれども、長男のときに、今はこんなに多いとびっくりしたくらいにクラスに数人という感じで、私の頃とは少し違うのだなと感じました。今の子はそんなにストレスがあるのかなというところも考えるところですが、もし、自分の子が学校に行けなくなってしまうらと思った時に、去年の一斉休校を思い出しました。外出ができなくなって、塾も習い事もなくなって、まさに引きこもり状態。急に学校に行っている筈の子が家に居て、そうすると生活が乱れて起きる時間が遅くなったり寝るのも遅くなったり、食べ物も偏るし、宿題もないので暇だからやることもないのでゲームをやる。やはり、一番心配だったのは勉強のこと。学習の遅れ。それが一番心配で、あと、運動不足。今、中学1年生なのですが、ずっとサッカーをやっていて、急に外に出ない日が続いて、これは体力低下がとても心配になりました。あとは栄養ですね。給食はバランスがいいし、苦手なものも給食だと食べてくれるので。不規則な生活で集団生活とか規則正しい生活にすぐに戻っていくことができるのかというのは、本当に不安で心配になりました。それは休校だったのですけれども、そう思うとそれが不登校になると、また色々なストレスが加わってくるのではな

いかなと思って、行けなくなった不安とか、周りから取り残されるような孤立感みたいな。そう思うと、これは親も体調を崩してしまうのではないかと思ったくらいで、そういうところで学校に行けない子にサポートがあると、そういう心配が少しでも減ってくれるならば、心強いし、安心するのではないかと思います。これから、色々な形での支援が重要になってくるのではないかと感じています。私は詳しく知らないのですが、適応教室でどういう生活をしているのかとか、そこにも行けない子もいると思うのですが、そういう子たちは、どういうサポートを受けているのかとか、あと、進学先、中学校を卒業した後はどういう風になっているのかなというのが気になったのですけれども、どうでしょうか。

(田口指導主事)

ありがとうございます。今年はコロナ禍ということで非常に親御さんも、私たちも初めてのことで心配の中、先ほど言われた生活が乱れるのではないかとということで、やはりスタートの時は結構大変な状況もあったようです。

本町は、特別支援員の配置があり、上手にやっていただいていたので、落ち着いて生活ができたのではないかなと思っております。それから学習の遅れも心配されましたが、色々な手法をしながら遅れは2月までには解消できているということです。ほぼほぼ学習の遅れはないと思っております。年間で余剰の時間もあるものですから、そういうのも上手に活用したり、プリントを使ったりとかして対応しました。あと、体力不足については、もう本当に、それはなかなか難しいことで、今も緊急事態宣言が出ており、部活も控えながらということでやっております。今は、少し我慢のし時かなというところもありながら、それでもできる範囲のものは濃厚接触者が出ないような状況で、体育の授業をしており、今後、部活を少しずつ始めていこうという話になっております。

また、適応指導教室につきましては、「あいあい」というのが、柏森学供のところにありまして、今、中学生は10名、小学生は3名の併せて13名という状態です。対応教員につきましては、3名おりまして9時から15時ということで親が送ってきて、親が引き取りということです。指導員の先生に助けられながら運営をしております。一人1台タブレットがありますので、将来的に

はタブレットを使いながら授業の様子を流すのも模索していきたいということを校長会でも話しが出ておりましたので、今できることをやりながらドリルとか心のケアを含めながらやっている状況です。

どこにも行けない子に関しては、今、中学校で2人おまして、コミュニケーションは学校の担任がやっておりますので、電話連絡もしくは家庭訪問を含めましてやっております。その2人は中学校3年生ですので、進路も当然学校の方でコミュニケーションを取りながらやっておりますので、その点は全く連絡が取れないということではありませんので、上手に学校が連絡をして一緒に考えている状況で今やっております。

(議長)

その他は。

(松山教育委員)

先ほど町長から児童館のことで触れられました。丁度、今年の町長選というのはコロナの時ですから、コロナに費用がかかる、それに対してまた、来年税収も下がってくると思うのです。その中でのやりくりでコンパクトな児童館と政策を上げられたのだなと私は解釈したんです。そういうような形である程度の財政の見通しを持って、コロナ対策を一本にして町長が約束されたことに対して、皆さんが進んでいくというのが一番必要だと思います。

それともう一つ、これは教育とは少し違いますが、子どもたちが住みたい町ということで、これはパブリックコメントの1番に上げてありました「自然とのふれあい」、それが去年テレビを見てました時に、住みたいまちの愛知県の1番に確か長久手市があがったんです。その時に、30代の主婦の方がテレビで言われていたのが、自然とふれあう公園があるということをあげてみえたのです。やはり、小さな子どもがいる主婦の方は、子どもたちが住みやすいまちがどういうところなのかということです。扶桑緑地で去年の秋くらいに遊具を新しくされましたが、あそこに小さな子どもを連れた主婦の方が大勢みえるようになったんです。やはりそういう場所が住みたいまちの目標に若い人にはなってくると思うのです。そういう点を考えていただきたいと思います。以上です。

(議長)

まず、公約のご質問、ご意見がございました。出させていただいた中で、今回、学校給食費につきましては、先ほども申し上げたとおり、まず第3子以降の給食費を免除ということで補助していきたいということで、これは4月から行いたいなと思っております。

児童館につきましては、以前の計画が先ほど言いました保健センターと併合した建築費だけで6億円くらいの計画でありました。なかなか、この先の扶桑町の財政を眺めた時に、文化会館の維持ですとか、実はこの役場の庁舎も50年経っておりまして、10年耐用年数を延ばしたとしても、あと17、8年後にここを建て替えなければならない。その後に小学校等の耐用年数が色々来ますので、そこに多額の費用も要ると、それから保育園も結構老朽化が進んでおりまして、そういった長期の視点から見ると今は我慢していただくところは我慢していただいて、そういった全体を眺めたバランスを考えた財源投入が必要だということで児童館につきましては、この言葉がいいかどうか分かりませんが華美な部分は大分除かせていただいて、機能的に問題がない楽しく使っていただける児童館にしようということで、外観は前の計画は丸い部屋になって、そこにアルミパネルがついて非常に見栄えがいいものだなと思いましたが、今はそういうところは我慢をしていただいて、できる限りその部分は節約をさせていただいて、先ほど言いました財源が残れば保育園の改修ですとか、そういったところに回したいなと。そういうところでお願いしておりますけれども、大きき的にはそれ程、縮めているわけではありません。いわゆるデザイン的な部分の見直しをさせていただいて節約をしよう。

もう一つ保健センターにつきましては、今の保健センターの調査をさせていただいたら、非常にコンクリート等の状況も良いということで、まだ20年くらい相当期間使えるということが分かりましたので、今は我慢をしていただいて今の保健センターをもう少し使っていこうという方針を、そういうことで公約として見直しをすると出させていただいたところです。

それから今の、扶桑緑地公園の件ですが、私もいろいろ現場を見たりしておりますが、本当に小さいお子さんを連れた方がたくさん来ていただいてありがたいなと思っております。これにつきましては、7、8年先ですが、新愛岐大橋と言いまして山名小学

校から上がったところに新しい橋の計画がございます。それを含めて、今、扶桑町、江南市、犬山市、それから岐阜県側が各務原市、坂祝町、可児市、美濃加茂市の市町が集まりまして、かわまちの協議会ができて、連携して一帯地域の木曽川を挟んだ区域で、色々な住民の方へ開発も含めてできないかという協議を始めることができました。そういった中で扶桑町としましては、やはり緑地公園が非常に魅力ある公園だと思っておりますし、扶桑町のランドマークになるようなものだと思っておりますので、その中で国交省とも協議をしながら、もう少し使いやすい。例えば私は駐車場が足りないと思っておりますので、何とかそこを広げられるように、今、国交省の方に実は既にお願ひしておるところでございまして、それからもう少し色々なイベントができるコーナーですとか、今だとキッチンカーとか流行っておりますので、そういったものを呼んで、多くの方があそこに集えるような公園にしたいという構想は今持っております。ただ、河川区域ということで規制的な面ですとか、財源等どう確保していくかという面がございますので、直ぐという訳にはいきませんが、是非ともそういったことで魅力ある公園を作っていきたいと思っておりますので、できる限りこれもチャンスがあれば進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

（松山教育委員）

私も今の緑地公園のところは正直言って駐車場が少ないということは思っております、橋の下のところが駐車場でそこまで緑地公園を延長するといいいのではないかという気はあったのですが。

（議長）

ありがとうございます。またお知恵がありましたら拝借しながら進めていきたいと思っております。

（松山教育委員）

それと、もう1点。今、校舎の建て替えという話がありましたが、ここの役場もそうですけれども。実は、今年度、9月で高雄小と山名小の体育館の雨漏りの点検と補修をやっていただいたわけですが、樋が内側に入っているものですから、大雨が降った時にはあのままの状態でもいいかどうかという問題なのです。

今みたいな異常気象の時ですと、中に当然入ってくると思うのです。ですから設計士さんに調べてもらわなければいけないですけども、カーポートみたいな上に被せて補強できて、外の雨の排水ができないかということを思っているのです。と言いますのは、あれは体育館であって公民館です。公民館で、避難場所になっているわけです。避難場所が豪雨の時に避難してきて、そこで雨が漏ったら何ともならんわけです。

それと、コロナですけれども3次で収まればいいのですけれども、4次とかそうなった場合、例えばコロナ対応で避難場所といったら広い場所は体育館しかないわけです。そうするとやはりその点でもある程度、まあ体育館の建て替えは無理ですけれども、屋根だけ補修すればあと10年15年もってくれば、その間に検討できるかなと思いますので、できたら避難場所であるもので考えていただきたいと思います。

(志津野教育次長)

今の山名小、高雄小の雨漏り修繕につきましては、教育委員会の方でも報告させていただきましたとおり、今年度、すでに終了しております。それ以降、雨の降り方等を各学校の先生にお願いしまして見てもらっているところでございますが、修繕した以降は大雨が降っておりませんので、その状況が掴めていない状況です。ただ雨の降り方に注視しまして、多分今回の修繕で殆ど大丈夫であろうということで修繕をさせていただいたのですが、今仰るようにこれからのことを考えまして、色々工法とかそういうことも徐々に研究しながら進めていきたいという風に思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(議長)

仰るとおり避難場所としての中心施設でございますので、いざというときにしっかりした避難ができる。雨が漏らないというのは基本中の基本だと思いますので、それは検証させていただいて進めたいと思っております。仰るとおりコロナということを考えますと非常に収容人数の制限ですとか、そういった問題が出ております。町としましてもコロナについては、いわゆる仕切りというか段ボールやテント式のものを今年度購入しまして、感染防止をとりつつ避難ができるような備品関係はかなり充実した状況になってきております。ただ仰るとおり建物、躯体自体に問題

があれば避難所としての機能が損なわれますのでしっかりと点検をさせていただいて今後に繋げていきたいと思っております。

貴重なご意見ありがとうございました。その他に何かございましたら。

(澤木教育長)

教育ということで、私も一つ発言させてください。教育委員の方からいろいろな視点で日頃思っていらっしゃるご意見をたくさん出していただいております。

4つのことが話題になったと思うのですが、きめ細やかな人的配置。給食センターの食の安全について。支援の必要な子どもに対応するための適応指導教室。最後は居場所ということで子どもたちが楽しく集える場所とか親子で過ごせる場所で、児童館や緑地公園について。

もう一つは教育長として、今日のテーマになっている、これからは子どもたちが扶桑町に住み続けるという視点で、私たちが学校現場でできることです。今の扶桑町には良さがたくさんあるわけなので、そう言ったことを学ぶ。それから今までの歴史や扶桑町の伝統など、ふるさとを愛せるような勉強を学校でする必要があると思っています。そして、未来の扶桑町の姿を想像するような学習の機会を是非、私の任期中に各校が工夫して教育課程を作っていくというようなビジョンを今のところ持っております。SDGsが今話題になっておりまして、自分たちがこの扶桑町を担っていく、将来の町民になっていくという自覚を持った子どもが育つようにと思っています。総合的な学習の時間というのがありますけれども、今まで各校が工夫をして作り上げてきていますが、さらに扶桑町の未来に視点をあてて、SDGsの視点を少し入れながら子どもたちが郷土を愛して、未来を見つめるというような学びのチャンスを作っていきたいと思っております。学校現場で努力できることとしてお約束したいと思っております。この教育大綱に見合った視点だと思いますので、努力させていただきたいと思っております。

(議長)

ありがとうございました。以上をもちまして議題(2)は終了させていただきたいと思っております。

3. その他

(議長)

協議事項以外で何かご発言等ございましたら承りたいと思います。

(松山教育委員)

今、扶桑町の人口は減少傾向にありますよね。それで、去年、山名小学校では学年で1学級のクラスがあったのです。今年は幸いにも現状2学級になっていますけれども。少子化になって、また1学級になる可能性もあるわけです。例えばの話、小学校の区割りの見直しというものの検討はどんなものでしょう。例えば、扶桑台は高雄小と山名小だと、手前の方だと山名小が近いと思うのですが、子どもたちが1学級よりも2学級だと配置換えとかができるので、そういう点も検討していただきたいなと思います。

(澤木教育長)

児童生徒の人数の変化ですけれども、現状この5、6年は大体横ばいで良かったのですが、7年か8年後くらいに山名小のクラス数が今40人学級で今年から35人学級が始まるのですが、1クラスになっていく傾向が見られます。なので、校区の再編というのを考えなければいけない状況になってくるかもしれないですし、学校の個別施設のこれからの長期的な展望も含めながら検討していかなければならない課題になってくると思います。

今のところ5、6年は大丈夫ですけれども、山名小が減少傾向です。ということは北中も減少傾向で10年後くらいには両校3クラス位は減っていくというのが今の見通しです。今後、まだ人口のこういう話題をしているように流入ということも見込まれますが、今生まれた子で計算をするとそういう状況が見込まれます。

今、松山委員が言われたように、地区の再編によって1クラスにならないようにというのも一つの選択肢ではあると思います。

(松山教育委員)

3校は、みんな北中に行くものですから、中学校は一緒になるので特に問題はないと思いますので、その点も一つ考えていただけたら。

(議長)

その他よろしいですか。

それでは意見も出尽くしたようでございます。本日は大変長時間に渡り、ご審議いただき貴重なご意見も賜りました。本当にありがとうございました。これで本年度の総合教育会議は最後になりますけれども、本日、審議をいただきました教育大綱につきましては、この後ホームページ等に公表させていただいて、議会の方に議案ではございませんが、報告させていただきましてこれを大綱として進めさせていただきたいと思っておりますので、宜しくお願いをいたします。

【午前 10 時 55 分終了】